

曾根天満宮秋祭り

毎年10月13日14日、総重量2,000キロを超える色とりどりの屋台11台が曾根天満宮を通り、市内を練り歩きます。日没後はライトアップされます。

曾根天満宮は、屋台の屋根に布団を敷いた独特の布団屋台の草分け的存在です。この形式の屋台は文化文政年間（1804-1830）のものと考えられています。文久元年（1861年）の絵馬には曾根式の屋台が描かれていますが、現在のように派手な装飾が施されるようになったのは20世紀に入ってからです。

さまざまな祭りの儀式には、男たちが吹流しのついた竹の棒を地面に叩きつけて、遠くにいる観衆に自分の位置を示す「竹割（たけわり）」や、幼児の額に文字を描き、帽子や狩猟衣装を着せ馬に乗って神社に入る「一ツ物（ひとつもの）」などがあります。一ツ物は、大人よりも幼児のほうが神を引き寄せやすいとの考えから行われます。